

2015年に安保法制が強行された時、これでは自衛隊が海外で実際に銃弾を撃ち、殺されたり殺したりすることになると、大変な危機感を持ちました。

その前年、私は妻を亡くし、いちばん大切な人を突然に失う悲しみを知りました。戦争とは、そうした悲しみを山ほど生み出す行為だと思います。

私は、現状において政権を担うには、「自衛のための必要

元我孫子市長・元消費者庁長官

## 福嶋 浩彦さん

# 平和の合意作りを

最小限度の実力」としての自衛隊は合憲という立場に立つ必要があると考えています。

しかし、安倍首相の改憲案

は形だけ9条1項、2項を残しても、集団的自衛権行使を認める憲法解釈、法体系のもとで自衛隊を明記すれば、自衛隊は世界中で戦争できる普

通の軍隊になってしまうと思

「理想」ではない

しかし一方で、「戦争は怖い。だから自衛隊を強化し

て、アメリカ軍とも連携を強めてほしい」と考える人が増えています。北朝鮮問題を安

倍政権がうまく利用していることも大きいと思いますが、

それに対して「平和は大切、戦争は嫌だ、だから9条を守る」と言うだけでは9条は守れないと考えます。

どうすれば現実に平和を実現できるのか、正面から話す必要があります。トランプ大統領の言いなりで、海外でも

私は地方自治の仕事をしてきました。徹底して「市民」から出発する自治の思想は、

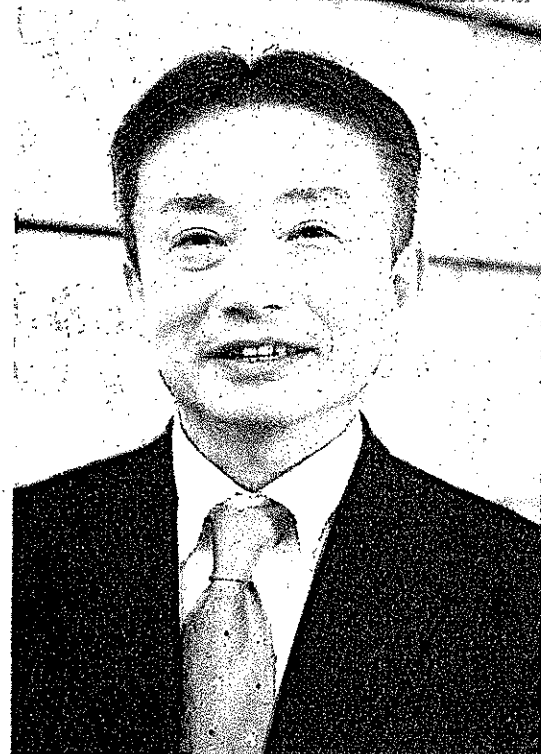
徹底して「国家」から出発する安倍政権と最も鋭く対峙するものだと考えています。自治は、「こんなふうに暮らしたい」「こう生きていきたい」という市民一人ひとりの思いから出発して、皆で話し合い、合意をつくります。

どこかに決まった正解があるわけではないです。9条を守ろうと身内だけで盛り上がりだすと、意見が違ってくる人と対話を深め、「やはり9条は変えないほうが良い」という幅広い合意を作りたいのです。そのことが安倍改憲を止める大きな力になると思

想」ではなく、最も「現実的」な平和への選択のはずです。

市民の立場から

ふくしま・ひろひこ 1956年、鳥取県米子市生まれ。千葉県我孫子市議を経て、1995年から2007年まで市長を3期。10～12年に消費者庁長官。現在は中央学院大社会システム研究所教授。



## 許すな 安倍9条 改憲

9条は決して単なる「理

聞き手 佐藤高志